

アルゼンチンの大統領選挙（545号）

2023年 12月 石館

南米アルゼンチンの次期大統領に右派のミレイ下院議員が決まった。世界有数の水準のインフレや通貨安で経済苦境に陥る中、中央銀行の廃止や経済のドル化など過激な主張を唱えた。次期政権は議会少数派で公約実現に課題を残す。中国

寄りだった現政権の路線は一転し、米国との関係改善が進む見通した。



左は中南米の地図だが、南米大陸では面積でブラジルとアルゼンチンで7割近く占めている。またGDPでは中南米のブラジルは33%、アルゼンチンは10%と面積、GDPともこの2カ国で圧倒的なシェアを持っている。

近年中南米では左派政権の誕生が相次いでいたが、今回の

アルゼンチンの大統領選で中南米の政治地図に一石が投げられる形となった。

中南米では2018年のメキシコ、19年のアルゼンチン、20年のボリビア、21年のペルー、昨年のホンジュラス、チリ、コロンビア、今年のブラジルと左派政権の発足が続いた。

“共産主義化（赤化）するほど過激ではない”との意味で“ピンク波”と呼ばれる。米国は近接する中南米諸国の左傾化や対中接近に神経をとがらせてきた。

アルゼンチンのフェルナンデス現大統領は中国の巨大経済圏構想“一带一路”

への参加を決定し、“米国への依存を止める”などと公言してきた。これに対しミレイ氏は、“社会、国家主義者との戦い”だと表明。中ロなどの新興5カ国(BRICS)に新規加盟するとのフェルナンデス政権の方針にも反対してきた。



大統領に当選した
ミレイ氏夫妻

アルゼンチンは干ばつで主力の農業が打撃を受け、通貨安が加速している。輸入品の価格は上がっており、9月の消費者物価指数は138%の上昇と、

約32年ぶりの高い水準となった。国民の約4割は貧困にあえぐ。

ミレイ氏は解決策として大規模な改革を訴えた。その代表例が中銀の廃止と経済のドル化だ。ドル化では当初は自国通貨ペソとドル両方を国内に流通させ、徐々にドル一本化を想定しているようだ。中南米ではエクワドルやエルサルバドルが法定通貨に米ドルを採用した。しかし経済規模の違うアルゼンチンでのドル化は難路が待っている。

アルゼンチンの経済規模は南米2位でエクワドルの5倍以上だ。ドル化や中銀廃止で自国の金融政策を放棄すれば、通貨切り下げなどできなくなる。一定の内需があるアルゼンチン経済にはリスクとなる。ミレイ氏は“小さな政府”を掲げ、公共支出の大幅削減や国営企業の民営化などを訴えてきた。

ただ議会の承認が必要な政策も多いとみられる。ミレイ氏の率いる右派の“自由前進”はアルゼンチン上院72議席中10議席以下で、下院でも257議席中40議席に満たない。議会でミレイ氏の政策が簡単に通るとは思えない。

アルゼンチンは外交面でも大きな転機を迎える。現在の左派政権は中国との

関係を重視してきた。4月には輸入決済に人民元を導入し通貨スワップも拡充した。これに対しミレイ氏は“共産主義者とは手を組まない”と発言している。また現政権はBRICSに参加を表明していたがこれにも反対している。

アルゼンチンにとって中国は最大の輸入相手で、22年には輸入額全体の2割を占めた。投融資でも関係が深い。ミレイ氏は中国離れを示唆しているが、中国依存を修正するのは簡単ではない。就任後は実利主義的に動かないと政権自体の土台が揺れてしまうであろう。



4~5月：パタゴニアの紅葉のシーズン！ 蒼い氷河と紅葉を一度に見るチャンスあり！（イメージ）

アルゼンチンは豊かな自然に恵まれている。

アルゼンチンは1816年スペインから独立して以降、9度のデフォルトを経験している。インフレ率が2桁に達したことも1度や2度ではなく、最高で5000パーセントものインフレーションに遭い、大幅な通貨切り下げを繰り返した。

アルゼンチンは1929年の大恐慌までは極めて安定的かつ確実な国家だったが、恐慌が起こってからは最も不安定な国に数えられるようになった。1930年代以降、アルゼンチン経済の凋落には著しいものがあったにも関わらず、1962年まではアルゼンチンの一人当たりのGDPはかつての宗主国であるスペインは言うに及ばず、オーストラリア、イタリア、日本より高かった。

アルゼンチン経済の詳細は省くが、アルゼンチンは世界8位という広大で肥沃な国土に恵まれ、農業では他国に比べ優位であり、力強い経済成長を果たした。このような国がその後何故9回もデフォルトを繰り返すような国になってしまったのであろうか。1946年ペロン政権が成立し、外国資本排除、産業国有化、福祉・公共支出の拡大、現金性補助金の支給、賃金の引き上げなどアルゼン

チン・ナショナリズム・左派ポピュリズム・左翼的ファシズム政策を取った。第二次大戦時におけるアメリカなどへの牛肉、羊肉など農業・畜産輸出による富裕国であり、それで得た外貨でこれらの政策を行ったため、すぐに使い果たした。

アルゼンチンは、2001年から数年にかけてデフォルトをおこし経済破綻に陥った。この時国民はミミズまで掘って食べるといった、悲惨な状況になった。その後アルゼンチン経済は良くなったり悪くなったりしたが、ラテン民族の気質か、悲惨な目に遭ったことは忘れてしまい、放漫財政に戻ってしまう繰り返しである。

次期大統領のミレイ氏は就任前にまず米国を訪問すると述べている。米国務長官は声明で“人権や民主主義の保護、気候変動への対処、中間層への投資は両国民に利益をもたらす共通の優先事項だ”だと言及している。450億ドル規模の債務問題を抱えミレイ氏はアルゼンチン経済を立て直すのは容易でないであろう。



華麗なるアルゼンチンタンゴ

首都ブエノスアイレスの劇場に小生も見に行ったことがあるが、経済状況に関わらずいつもこの劇場は大入り満員だったそうである。